

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-174603

(43)公開日 平成11年(1999)7月2日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
G 0 3 B 37/00  
G 0 2 B 5/10  
17/00

識別記号

F I  
G 0 3 B 37/00  
G 0 2 B 5/10  
17/00

A  
A  
Z

審査請求 未請求 請求項の数6 FD (全4頁)

(21)出願番号 特願平9-362709  
(22)出願日 平成9年(1997)12月13日  
特許法第30条第1項適用申請有り 平成9年6月30日発行のセキュリティ産業新聞に掲載

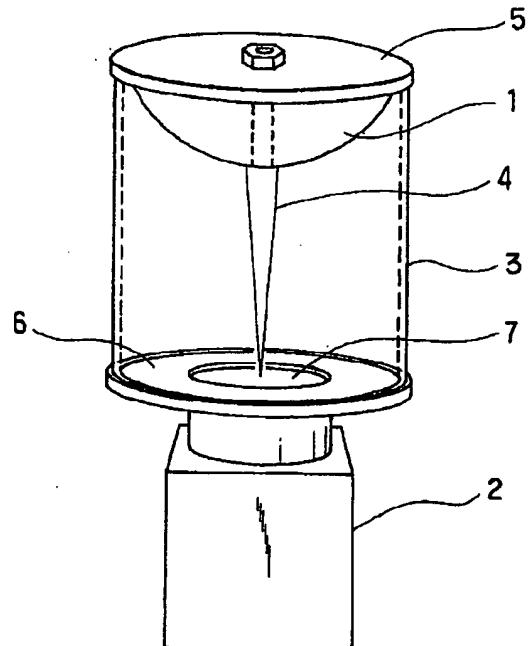
(71)出願人 395015863  
株式会社アコウル  
東京都中央区日本橋本町三丁目1番6号  
(72)発明者 石黒 浩  
京都府京都市左京区高野夢原町1番地3  
ルネ下鴨東723  
(72)発明者 西原 修  
東京都中央区日本橋本町三丁目1番6号  
株式会社アコウル内  
(74)代理人 弁理士 苦米地 正敏

(54)【発明の名称】 全方位撮影装置

(57)【要約】

【課題】 回転対称体形状を有する凸面鏡をカメラと相対して配し、凸面鏡でカメラ光軸を中心とした全方位の光をカメラレンズに集光するようにした撮影装置において、凸面鏡とカメラとを連結する筒体の内面反射光による問題を生じることなく、鮮明で精度の高い撮影画像を得る。

【解決手段】 筒体で内面反射して凸面鏡に達する光は、筒体で内面反射する前に必ず凸面鏡の軸線延長上を横切ることに着目し、筒体で内面反射する前の光を遮るために部材を凸面鏡の軸線延長上に沿って配置することにより、筒体の内面反射光が凸面鏡に達することを防止できるようにしたもので、凸面鏡の頂部に、先端側が凸面鏡の軸線延長上をカメラ方向に延出する筒体内面反射防止用の棒状体を設けたことを特徴とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】回転対称体形状を有する凸面鏡と、該凸面鏡の頂部と対向する位置に配置されるカメラと、前記凸面鏡と前記カメラとを連結する透明な筒体とを有し、前記凸面鏡の軸線と前記筒体の軸線が略一致した関係にある全方位撮影装置において、

前記凸面鏡の頂部に、先端側が凸面鏡の軸線延長上をカメラ方向に延出する筒体内面反射防止用の棒状体を設けたことを特徴とする全方位撮影装置。

【請求項2】凸面鏡の軸線と棒状体の軸線とカメラの光軸とが略一致した関係にあることを特徴とする請求項1に記載の全方位撮影装置。

【請求項3】棒状体が凸面鏡側を底面とする円錐体であることを特徴とする請求項1または2に記載の全方位撮影装置。

【請求項4】棒状体の表面に光を吸収しやすい被覆処理が施されていることを特徴とする請求項1、2または3に記載の全方位撮影装置。

【請求項5】凸面鏡が直線または曲線状の稜線を有していることを特徴とする請求項1、2、3または4に記載の全方位撮影装置。

【請求項6】透明な筒体は、一端側が凸面鏡の外周部またはその近傍に固定され、他端側が中央に光通過用の窓孔を有する連結部材を介してカメラに固定されていることを特徴とする請求項1、2、3、4または5に記載の全方位撮影装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明が属する技術分野】この発明は、カメラ光軸を中心とした360°の視野範囲の全方位を撮影することができる全方位撮影装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、カメラ光軸を中心とした360°の視野範囲の全方位の画像を撮影するための装置として、回転対称体形状を有する凸面鏡をカメラと相対して配し、凸面鏡でカメラ光軸を中心とした360°の視野範囲の全方位の光をカメラレンズに集光するようにした撮影装置が知られている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】この装置では、凸面鏡とカメラとを透明な筒体で連結する必要があるが、この筒体の内面反射光も凸面鏡でカメラレンズに集光され、撮影されてしまうため、鮮明で精度の高い撮影画像が得られないという欠点があり、このことが上記装置を実用化する上で大きなネックとなっていた。

【0004】したがって本発明の目的は、この種の撮影装置において凸面鏡とカメラとを連結する筒体の内面反射光による問題を生じることなく、鮮明で精度の高い撮影画像を得ることができる装置を提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】このような課題を解決するため、本発明では連結用の筒体の軸線が凸面鏡の軸線と略一致していれば、筒体で内面反射して凸面鏡に達する光は、内面反射する前に必ず凸面鏡の軸線延長上を横切るという事実に着目し、そのような内面反射する前の光を遮るための部材を凸面鏡の軸線延長上に沿って配置することにより、筒体の内面反射光が凸面鏡に達することを確実に防止できるようにしたものである。すなわち、本発明の特徴は以下の通りである。

【0006】[1]回転対称体形状を有する凸面鏡と、該凸面鏡の頂部と対向する位置に配置されるカメラと、前記凸面鏡と前記カメラとを連結する透明な筒体とを有し、前記凸面鏡の軸線と前記筒体の軸線が略一致した関係にある全方位撮影装置において、前記凸面鏡の頂部に、先端側が凸面鏡の軸線延長上をカメラ方向に延出する筒体内面反射防止用の棒状体を設けたことを特徴とする全方位撮影装置。

【0007】[2]上記[1]の装置において、凸面鏡の軸線と棒状体の軸線とカメラの光軸とが略一致した関係にあることを特徴とする全方位撮影装置。

[3]上記[1]または[2]の装置において、棒状体が凸面鏡側を底面とする円錐体であることを特徴とする全方位撮影装置。

[4]上記[1]～[3]のいずれかの装置において、棒状体の表面に光を吸収しやすい被覆処理が施されていることを特徴とする全方位撮影装置。

【0008】[5]上記[1]～[4]のいずれかの装置において、凸面鏡が直線または曲線状の稜線を有していることを特徴とする全方位撮影装置。

【0009】

【発明の実施の形態】図1～図3は本発明の全方位撮影装置の一実施形態を示すもので、図1は斜視図、図2は正面図、図3は棒状体の好ましい取付条件を示す説明図である。図において、1は回転対称体形状を有する凸面鏡、2はこの凸面鏡1の頂部と対向する位置に配置されるカメラ、3は凸面鏡1とカメラ2とを連結する透明な筒体である。

【0010】前記凸面鏡1はガラス等により構成される鏡面体であって、支持体5に取り付け支持されている。また、前記カメラ2はカメラ光軸が凸面鏡1の軸線(回転対称体の回転軸)の延長線と一致するように配置され、前記筒体3により凸面鏡1に連結されている。

【0011】前記筒体3はガラスやプラスチック等の透明材から構成されており、凸面鏡1を外周し、且つその軸線と凸面鏡1の軸線が略一致する(すなわち、両軸線

が略同一直線上ある)ように配される。この筒体3は、一端側が凸面鏡1の外周の支持体5に固定されるとともに、他端側が光通過用の窓孔7を有する連結部材6を介してカメラ2に接続され、これにより凸面鏡1とカメラ2とを連結している。この筒体3の形状は任意であり、本実施形態のような円筒体に限定されない。また、長手方向で径が変化したような筒体であっても構わない。前記連結部材6は、カメラ2の撮影部先端に取り付けられるリング状の板体により構成されており、その円形の透孔7はカメラ2のレンズに応じた大きさ、具体的には透孔7の周縁部がカメラの撮影視野に入らないような大きさとすることが好ましい。

【0012】以上のような装置構成において、凸面鏡1の頂部には、先端側が凸面鏡1の軸線延長上をカメラ2方向に延出する筒体内面反射防止用の棒状体4を設けている。この棒状体4は筒体3の内面反射を生じるような光を遮るために設けられるもので、その軸線と凸面鏡1の軸線とカメラ光軸とが略一致する(すなわち、これら3つの軸線が略同一直線上にある)ように設けられる。なお、本実施形態の棒状体4は、凸面鏡1の内部を貫通する支持軸8に保持されることで凸面鏡1の頂部に固定されている。

【0013】本実施形態の棒状体4は、凸面鏡1側を底面とする細長い円錐体形状を有している。また、この棒状体4の表面で光が反射すると筒体3の内面反射の原因となるため、棒状体4の表面には光を吸収しやすい被覆処理、例えば、暗色(黒色等)の艶消し塗装等のような光の反射を生じにくい塗装等を施すことが好ましい。棒状体4の形状は特に限定されず、例えば、柱状(円柱状、角柱状等)、細長い円錐形状、細長い円錐台状等の任意の形状とすることが可能であるが、カメラの視野の邪魔にならないようにするという観点からは、本実施形態のような細長い円錐形状が最も好ましい。

【0014】また、棒状体4がカメラの視野を遮らないようにするためには、棒状体4を図3に示すように、凸面鏡1に映し出される透孔7の投影である円xを底面とし、カメラ2の第一主点yを頂点とする円錐状空間の内部に収まるような形状と大きさに構成することが好ましい。

【0015】また、棒状体4の先端(図1～図3に示す棒状体4の下端)は連結部材6の透孔7またはその近傍位置まで延出していることが好ましいが、筒体3の内面反射が実質的に生じない程度に光を遮断できれば、必ずしもこれに限定されるものではなく、棒状体4の先端と透孔7との間に適当な距離があってもよい。

【0016】回転対称体形状の凸面鏡1は直線状または曲線状(円弧状、2次曲線状また他の任意の曲線状)の稜線を有するものであれば、その形状には特別な限定はない。図4の(A)～(C)は凸面鏡の形状が異なる本発明装置の他の実施形態を示しており、このうち図4

(A)は図1～図3に示す凸面鏡よりも曲率の小さい円弧状の稜線を有する凸面鏡1を備えた装置、図4(B)は2次曲線状の稜線を有する凸面鏡1を備えた装置、図4(C)は直線状の稜線を有する凸面鏡1を備えた装置である。なお、これら装置の他の構成は図1～図3の実施形態と同様であるので、同一の符号を付し、詳細な説明は省略する。

【0017】図5及び図6は本発明装置の他の実施形態を示すもので、凸面鏡1の径をカメラ2のレンズ径と略同じ大きさにしたものであり、カメラ2は透孔7aを備えた連結部材6aを介して筒体3に取り付けられている。なお、本実施形態においても、棒状体4の好ましい取付条件は図1～表3に示す実施形態と同様であり、棒状体4の形状と大きさは、凸面鏡1に映し出される透孔7aの投影である円xを底面とし、カメラ2の第一主点yを頂点とする円錐状空間の内部に収まるようにすることが好ましい。なお、その他の構成は図1～図3の実施形態と同様であるので、同一の符号を付し、詳細な説明は省略する。本発明の全方位撮像装置は、図1の状態を上下逆にして使用する等、その使用態様は任意である。

【0018】以上述べたような本発明装置では、カメラ光軸を中心とした360°の全方位からの光a<sub>1</sub>が透明な筒体3を通して凸面鏡1に当たり、カメラ2のレンズに集光される。ここで、筒体3の軸線が凸面鏡1の軸線と略一致(すなわち、両軸線が同一直線上にある)していれば、筒体3で内面反射して凸面鏡1に達するような光は、内面反射する前に必ず凸面鏡1の軸線延長上を横切るものであり、したがって、本発明装置では筒体3で内面反射して凸面鏡1に達するような光a<sub>1</sub>は全て棒状体4で遮られ、筒体3の内面に達することはない(図2の2点鎖線で示す光a<sub>2</sub>)。したがって、筒体3の内面反射光が凸面鏡1に当たり、カメラ2に撮影されることが確実に防止される。

【0019】  
【発明の効果】以上述べたように本発明装置によれば、筒体で内面反射して凸面鏡に達するような光は全て棒状体で遮られ、筒体の内面反射光が凸面鏡に映し出されることがないため、筒体の内面反射光が撮影されない鮮明で精度の高い撮影画像を得ることができる。

40 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の全方位撮像装置の一実施形態を示す斜視図

【図2】図1に示す装置の正面図

【図3】図1に示す装置において、棒状体の好ましい取付条件を示す説明図

【図4】凸面鏡の形状が異なる本発明装置の他の実施形態を示す説明図

【図5】本発明の全方位撮像装置の他の実施形態を示す斜視図

50 【図6】図5に示す装置の正面図

5

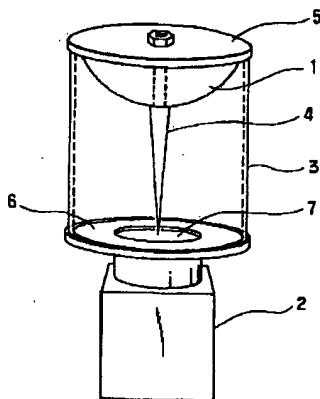
6

## 【符号の説明】

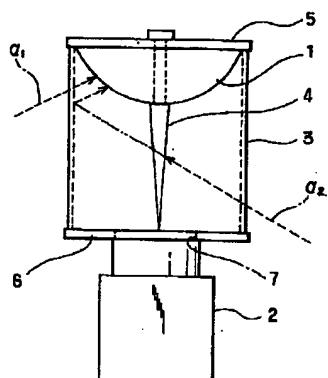
1…凸面鏡、2…カメラ、3…筒体、4…棒状体、5…持軸、  
 6…支持体、6 a…連結部材、7…窓孔、8…支\*

\*持軸、a<sub>1</sub>、a<sub>2</sub>…光、x…凸面鏡に映し出された透孔投  
 影である円、y…カメラの第一主点

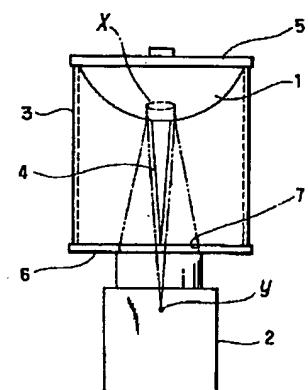
【図1】



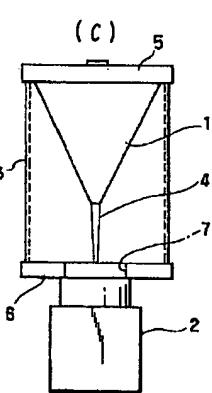
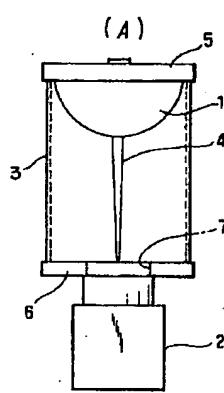
【図2】



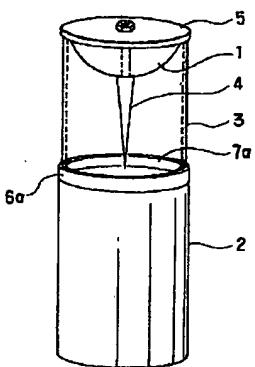
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

